

東京医師アカデミー クリニカルフェロー

周産期新生児コース 募集要項

1) 応募資格	平成31年4月時点で8年以上の医歴があり、以下のすべての要件を満たしている方 1) 日本小児科学会専門医を取得していること 2) 周産期専門医(新生児)を取得(取得見込みでも可)しているか、相当する知識及び技量を有すること 3) 学会誌もしくはそれに準ずる学術誌に1編以上の新生児に関する論文発表(掲載予定でも可)があること 4) 基本的な新生児科領域の知識、人工呼吸器管理、検査(採血、頭部エコー、心エコー、など)と新生児搬送が実施できること
2) 募集人員	1名程度
3) 所属先	東京都立小児総合医療センター 新生児科
4) 研修期間	3年間
5) 選考日	平成31年1月30日(水曜日)(予定)
6) 選考会場	応募者に直接連絡いたします。
7) 選考方法	個別面接(20分程度)、口頭試問(20分程度)
8) 合否連絡	選考後3週間以内に合否をご本人にご連絡いたします(合格通知後1週間以内に誓約書の提出をお願いいたします)。
9) 応募方法 提出書類	以下のものを申込期限までに下記 11)の申込先に郵送すること ① 応募用紙兼履歴書 ② 医師免許証の写し ③ 認定医・専門医等の資格証明書の写し ④ 推薦状2通 ※提出いただいた書類はご返却できませんので予めご了承ください。
10) 申込期限	平成30年12月21日(金曜日)必着
11) 申込先及び 問合せ先	〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号 東京都庁第一本庁舎24階中央 病院経営本部経営企画部職員課医師アカデミー担当 (電話)03-5320-5861
12) コース内容 に関する 問合せ先	岡崎 薫(東京都立小児総合医療センター 新生児科医長) (電話) 042-300-5111(代表)
13) 備考	選考日当日は、医師免許証の原本を持参すること。

周産期新生児コース

主たる研修病院 (所属病院)	東京都立 小児総合医療センター	
連携して研修する病院・施設(予定)	1)産科管理の研修 周産期医療の連携をおこなっている東京都立多摩総合医療センター・東京都立大塚病院・東京都立墨東病院を予定している。 2)臨床研究 連携実績のある東京都立総合医学研究所、国立精神神経センター、国立感染症研究所、東京農工大学、などを予定している。	
研修時に必要とする知識・技量 (応募資格)	1)平成31年4月時点で8年以上の医歴があること 2)日本小児科学会専門医を取得していること 3)周産期専門医(新生児)を取得(取得見込みでも可)しているか、相当する知識及び技量を有すること 4)学会誌もしくはそれに準ずる学術誌に1編以上の新生児に関する論文発表(掲載予定でも可)があること 5)基本的な新生児科領域の知識、人工呼吸器管理、検査(採血、頭部エコー、心エコー、など)と新生児搬送が実施できること	
コース 責任 者	氏名(所属)	柿沼 亮太 (東京都立小児総合医療センター 新生児科)
	資格名	日本小児科学会専門医、周産期専門医(新生児)
	専門分野	新生児学
臨床指導体制	1)グループ制となっており、1グループは指導医含め6-7名程度の新生児科医師で構成されている。 NICU24床の症例を2グループに分けて担当医として受持つ。 NICUからGCUへ転棟後、退院までの期間を主治医として1名で受け持つ。 2)カンファレンス 毎日朝行われる病棟回診、毎夕行われる循環器科との合同カンファレンスで新生児の治療方針を決定する。 毎週水曜日に周産期カンファレンスをおこない、周産期管理について産婦人科、小児外科、小児循環器科と治療方針を決定する。 毎週2回施行される入院症例ケースカンファレンスおよび抄読会を通じ新生児領域全般の専門的知識を習得する。 3)小児感染症科・新生児科岡崎(IGD)とともに、周産期感染症管理を指導的立場でおこなう。 4)希望に応じて、産婦人科管理を学ぶことができる。 5)臨床研究と論文作成の指導を行う。	
臨床 研究	これまで 行ってきた 研究と実績	1)未熟児網膜症におけるトリプターゼの意義と治療展望についての研究 2)新生児血清トリプターゼ値の解明 3)前向き探索研究「極低出生体重児の満期時および幼児期の血圧と腎機能の検討」の実施に関して 4)生後早期の早産児におけるカフェイン/エン酸塩投与の薬物動態の解明 5)心筋トロポニンIによる早産児の心筋障害の評価 6)新生児高ビリルビン血症に対する光療法の有害反応の解明 7)新生児・乳幼児期におけるフロセミドの薬物動態学的検討 8)高純度軟化水による手荒れ予防効果 9)定量的運動機能評価システムの早産児発達評価への応用 【多施設共同研究】 1)早産児の呼吸障害に対する抜管後のHigh-Flow Nasal Cannula療法とNasal CPAP療法の多施設共同ランダム化比較試験 2)NICUにおける末梢穿刺中心静脈カテーテル関連血流感染症のリスク因子調査 3)早産児における左房容積および動脈管評価(介入を伴わない、前方視的多施設共同研究) 4)超早産児(在胎28週未満)における後天性サイトメガロウイルス感染症の実態調査
	今後行う 研究と 研究体制	実施予定の臨床研究テーマ 1)新生児の薬物動態解明 2)小児の運動機能評価方法の開発 3)新しい脂肪乳剤の臨床使用 【多施設共同研究】 1)新生児HIE自己臍帯血幹細胞治療(AMED研究班) 2)新生児低酸素性虚血性脳症の生物学的マーカーの臨床応用に向けた研究(AMED研究班)
研修項目	新生児医療について、指導的な立場での対応を研修、総合周産期センターで母体合併症のある周産期管理、周産期感染管理対応の実務研修を行います。また研修期間中には英文原著論文を必ず作成します。研修の到達度によっては、東京都立小児総合医療センター内・東京都立多摩総合医療センター産婦人科での自由選択の研修を行うことも可能です。 1)研修期間内に経験すべき症例数 超早産児(在胎28週未満、出生体重1000g未満) 100例、重症新生児仮死 15例 外科系疾患の新生児管理(先天性心疾患、小児外科疾患、脳神経外科疾患など) 30例 2)手技等の件数 中心静脈カテーテル挿入 100件、臍帯動脈・静脈確保 30件、交換輸血 5件、気管挿管と人工呼吸器管理 150件、胸腔ドレーン挿入 10件 3)国内外学会発表目標数 1年目(国内2件、国外0件)、2年目(国内2件、国外1件)、3年目(国内3件、国外2件) 4)論文投稿目標数 研修期間を通して、英文2編、和文3編	
研修内容・達成目標	(1)重症新生児の集中管理 (2)気管挿管、ドレーン挿入、臍帯カテーテル挿入などの特殊技術の修得 (3)低体温療法、NO療法、N2療法などの特殊治療の技術修得 (4)未取得である場合は周産期専門医(新生児)を取得できる能力を得る (5)新生児感染症など新生児医療に関連した臨床研究を行い、学会発表、論文を作成する	
コース内容に関する 問合せ先	岡崎 薫 (東京都立小児総合医療センター 新生児科医長) TEL:042-300-5111(代表)	